

本日 県議会が決議を採択

1年以上の時間をかけ慎重な検討と説明を

大きな合流に確信し 10万人署名達成を



本日(10/12)、県議会は「県立高校の再編に関する決議」を全会一致で採択しました。これは、自民党の提案で他党派が賛成したものです。

決議案には「保護者から疑問や批判の声が続出し、関係市町からは公開質問状や再質問が相次いで出されるなど…。このまま、県民や市町の理解を得ることなく事を進めることがあれば、子どもと地域の将来に禍根を残す…。県当局は、今年度内の計画策定という方針に拘泥することなく、少なくとも今後1年以上の時間をかけ、更に慎重な検討と生徒や県民への説明、理解を十二分に得よう、強く求める。」とあります。(右参照)

この決議案の採択で、「今年度中に再編計画を策定し平成26年度から実施する」としていた県行政は、昨年度に続き、実施時期の延期を強く迫られます。県行政の強硬姿勢に議会がストップをかけた形になりました。昨年度の全県のたたかいと、具体案が示されて以降の3地域の運動の盛り上がり、どんどん広がる「地元の高校を守れ」の県民の声が議会を動かしたといえます。

決議案によって「長浜北と彦根西の廃校、信楽高校の分校化、北部定時制の廃止」などが白紙に戻ったわけではありません。また、各党派とも、県行政が提案している再編計画自体に反対している訳ではありません。しかし、それでも事実上、延期を迫る決議を採択せざるを得ませんでした。ここに、県行政と県民の関係とは異なる、議会と県民の間の絶妙な関係が働いています。

今後の成り行きは予断を許しません。私たちが県民と一緒につづけてきた「地域の高校を守る」点での大きな合流の力に確信を持って、11月18日までに10万人署名を達成し、元々道理のない再編計画の白紙撤回に向けて、ともに頑張りましょう。

県立高等学校の再編に関する決議

本県議会は、平成22年12月22日、「県立高等学校の再編について慎重な検討を求める決議」を可決した。

同決議は、再編計画が生徒や保護者をはじめとする県民の間に不安と動揺を与えていることに鑑み、拙速な議論に陥ることなく、県民合意の形成に向けた慎重な検討を行うことを県議会の総意として求めたものである。

しかるに、現状は、説明会の場では保護者から疑問や批判の声が続出し、関係市町からは公開質問状や再質問が相次いで出されるなど、決議が求める姿から程遠いものであることは、誠に遺憾であると言わざるを得ない。

このまま、県民や市町の理解を得ることなく事を進めるようなことがあれば、子どもと地域の将来に禍根を残すことは必至であり、本県議会としても看過できるものではない。

よって、県当局においては、今年度内の計画策定という方針に拘泥することなく、少なくとも今後1年以上の時間をかけ、更に慎重な検討とともに生徒や県民への説明、理解を十二分に得よう、強く求める。

以上、決議する。

平成23年10月12日

滋賀県議会

ストップ高校統廃合速報 2011年度第26号

2011/10/12 県立高校の統廃合を考える会

077-522-4965 FAX 077-522-4978

(掲示・増し刷り・回覧などで全教職員にお知らせください)